

知床五湖利用のあり方協議会（第32回）議事録

【日時】平成26年4月24日（木）10:00～11:30

【場所】知床世界遺産センター レクチャールーム

【議題】

- (1) 第2期 知床五湖利用適正化計画について
- (2) 平成26～27年度知床五湖の利用に係わる全体スケジュール
- (3) 指定認定機関の平成25年度収支報告 審査部会会計報告
- (4) その他

資料：

- 資料1-1 知床五湖利用調整地区 利用適正化計画（平成26年3月改訂版）
- 資料1-2 協議会意見をふまえた計画の改訂内容について
- 資料1-3 第2期 知床五湖利用適正化計画の運用の方向性について（案）
- 資料1-4 平成26年度のヒグマ活動期の運用について
- 資料2 平成26～27年度知床五湖の利用に係る全体スケジュール
- 資料3-1 平成25年度指定認定機関収支報告
- 資料3-2 平成25年度登録引率者審査部会会計報告
- 資料4 知床五湖におけるキャンペーン企画について

- 参考資料1 知床五湖利用調整地区の告示内容変更について
- 参考資料1別紙 知床五湖リーフレット（平成26年度版）
- 参考資料2 知床五湖登録引率者の新規養成希望者募集要領
- 参考資料3 既存の知床五湖登録引率者研修カリキュラム
- 参考資料4 知床五湖登録引率者 養成・試験・登録の流れ
- 参考資料5-1 第31回知床五湖利用のあり方協議会 議事録（H25.12.3）
- 参考資料5-2 第19回知床五湖登録引率者審査部会 議事概要（H26.1.16）
- 参考資料5-3 第20回知床五湖登録引率者審査部会 議事概要（H26.3.3）

【議事概要】

環境省（中島）：昨年12月に行った協議会で、利用適正化計画の改定について議論を行った。いくつかの意見については事務局預かりという形でご承認いただいた。その後、環境省の方で、告示等の手続き等を行った。今回の会議では、改訂した内容についてご報告させていただくこととあわせて、計画をどのように運用していくかということについて

てご説明させていただき、ご意見をいただければと思う。今年度も引き続きお願いする。

環境省（松永）：

資料 1－1：知床五湖利用調整地区 利用適正化計画 説明

資料 1－2：協議会の意見を踏まえた計画の改定内容について 説明

昨年 12 月に議論し、大枠について承認いただいた利用適正化計画の最終版になる。前回会議でいただいた主要な意見をふまえた修正の方向性を中心にご説明させていただく。

- ・外国人利用者対応についての記載
- ・利用調整を行う期間、モニタリングデータの評価
- ・引率者の養成における引率者の責任

資料 1－3：第 2 期 知床五湖利用適正化計画の運用の方向性について（案） 説明

- ・平成 26 年度から 28 年度までの三カ年計画とする、必要に応じて見直し
- ・登録引率者は同行者の安全を確保する責任を有することの周知、研修強化
- ・既存利用（大ループ）の質、機会を維持する一方、様々な立場の人の利用機会の増加のため、補足的に小ループを設置する。
- ・提供機会の増大のために、質を確保しつつ緩やかな増加を図る。

資料 1－4：平成 26 年度のヒグマ活動期の運用について 説明

- ・大ループ小ループの設定について（使用間隔、方法、料金、ツアー時間）
- ・大ループにおける追い越しについて

知床ガイド協議会（若月）：利用者の増加のためには、環境省含め一体になった広報が必要になってくる。各分野の方が、協力して取り組む必要がある

ウトロ地域協議会（桜井）：現在の登録引率者は何人であるか。

環境省（松永）：29 名。

ウトロ地域協議会（桜井）：昨年の新規要請者は何名か。

環境省（松永）：昨年は 5 名、引率者のうち一名が活動できなくなり、差し引き 4 名の増加。

ウトロ地域協議会（桜井）：実際のその人数で、引率者が足りないためにお客様を受け入れることできなかった頻度はどのくらいあったのか。

環境省（松永）：確実に把握はできていない。各ガイドさんが電話口でお断りしたり、予約システムを見てあきらめる利用者があることはあったと思われる。オープンにする利用枠は登録引率者の数に見合ったものとするなどして、利用できる枠があるのに、利用できないといった不満感が出ないように設定をしている。10 人まで 1 ツアーに参加できるため、できるだけ効率的になるツアーが行えるシフトを考えていければと思っている。

ウトロ地域協議会（桜井）：知人が旅行中、知床に二日間滞在する日程をたてていたが、五湖の予約がいっぱいで、参加することができず、あきらめたという話がある。そういった潜在的な利用者の声をどういった方法で拾うべきと考えているか。

環境省（松永）：この場でどのような手法でということは、即答することはできない。予約

システムのアカウント数なども含め、見えないデータの拾い方を考えていきたい。

環境省（中島）：今でなくてもかまわないが、いい方策があれば教えていただきたい。

知床ガイド協議会（若月）：枠を増やしたり、予約のシステムを整えると同時に、予約のシステム自体を広める広報が必要であるように感じる。当日の小ループの予約が可能であるが故にそこに集まってしまう。

知床斜里町観光協会（松田）：事前に予約システムを利用すれば、2・3日の旅程があれば予約できないと言うことはあまりない。それは、ガイドが足りないというより、直前の予約であったために、自分が行きたいという利用枠がいっぱいであったのではないかと。余裕をもって事前に予約してもらおうということを知ってもらうことが大事。

知床ガイド協議会（若月）：利用者が予約システムなど、知床の情報について理解が薄い。極端には、五湖でクルーザーに乗れると思っている人までいる。情報発信は重要である。

知床財団（寺山）：発信は重要である。各機関で同様に発信することが大事である。人気の時間帯に入れなくなるということは事実。その一方、品薄感は決して悪いことではない。発信の仕方は大事である。品薄感を共有して発信することが効果的なのではないかと思う。今まで大ループをとってもよい商品として推していたからこそ、小ループの売り方については考える必要がある。

知床斜里町観光協会（松田）：品薄感は大事だと思うが、あまりに度が過ぎると、利用者が離れてしまう。バランス。情報を持っていないがために、当日に参加できないということが多い。カムイワッカの渋滞カレンダーのようなものがあれば、利用者自身で混雑期を外すこともできる。

環境省（松永）：ポータルサイトでの発信も含め検討していきたい。

知床斜里町観光協会（松田）：情報発信することは重要である。混雑期に、天気を見ながら直前に予約をしようとして、利用できない方も多い。

知床財団（寺山）：利用枠が満員になった日のデータはあるので、作れると思う。

知床財団（秋葉）：情報発信については、力を入れて取り組むべきであるということを明確にする必要がある。29名の引率者が統一されたスケジュールで動くなかで、情報発信を強化し、引率者と利用者を引き合わせる仕組み作りが必要である。また、駐車場が広がり、アクセスもしやすくなる中で、アクセス方法も含めて考えていくべき。

ウトロ地域協議会（桜井）：品薄感という話に関係し、知床五湖だけを推していくのではなく、知床を訪れる人の全体の動き考慮する必要がある。五湖の協議会で議論する内容ではないかもしれないが、他の観光地の確保も必要である。インフラに投資して、利用者が本当に増加するのか慎重に考える必要がある。五湖の話だけではなく、全体を含めどこかで話す機会が必要である。

知床財団（寺山）：予約などの関係で五湖を利用できない人に対して、他のものを提案できるということも大切である。

ウトロ地域協議会（桜井）：元々できていなかった部分であり、五湖の推進が進むといっそ

う問題になってくると考えられる。中長期的な知床のあり方を考える上で重要である。
斜里バス（下山）：小ループの利用について、電話での当日受付について記載があるが、当日朝に電話して、あいていれば予約できるという認識で間違いないか。

環境省（松永）：FH がオープンする 7：30 以降の受付であれば受け付ける。

斜里バス（下山）：お客様にその番号は教えてもいいか、ホテルなどでは問い合わせが多いと思う。

知床財団（秋葉）：5月の頭をめどに窓口の番号を案内したい。

環境省（中島）：知床に来てどうやったら楽しく過ごすことができるのかがわからない。海が好きな人であれば、半日は観光船に乗って、半日は五湖に行く等の1日を楽しくすごせるモデルや、家族で2日間過ごすときのモデルなどをホームページで示し、利用者の誘導を考えることもよいのではないか。その時に、午後に五湖を訪れるモデルを示せば誘導することができる。

ウトロ地域協議会（松本）：情報は出しているが、各機関が連携をとったものとはなっていないという現状。

知床財団（寺山）：観光協会がモデルプランのようなものを考えていると聞いたことがある。これからの課題となることである。

知床斜里町観光協会（松田）：モデルコースは必要だと考えるが、出し方が難しい。モデルコースが少ないと、それらに利用が集中してしまう。だが、コースを複数出すとみてくれない可能性がある。

ウトロ地域協議会（桜井）：資料1-4の小ループの時刻設定には何か根拠があるのか。8：00の便がなぜないのか？

環境省（松永）：8：00の大ループのニーズは高い。小ループは既存利用の支障にならないような補足的利用として位置づけていることから、大ループの使用枠を削ってまで設置してはいない。今まで大ループでは不可能だった16:00にスタートする枠があるという意味は大きいのではないかと考えている。

環境省（松永）：

資料2 平成26～27年度知床五湖の利用に係る全体スケジュール 説明

特別なこととしては、知床五湖駐車場の工事がある。工期が最低でも3ヶ月はかかり、切盛の造成工事が伴ってくる。過去に冬季の造成を行って、春先に崩れて再工事を行ったという例があるため、冬季の工事は避けたい。一方、観光シーズンを考慮すると九月末までは着工は控えたい。以上の点を踏まえて、苦慮した結果、工期を2期に分けることとした。今年に関しては、10月13日までを本年度知床五湖の利用期間とし、14日より閉園として、本格的な造成工事を行いたい。ただし、10月中も準備工を行って利用と工事を併用するような形がとれればと思っている。そして、来年度のGW後に残りの舗装工事を行うことを予定している。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : 10月14日の去年の利用状況はどうなっていたか。

知床財団 (秋葉) : 連休後ぐっと減る。10月全体では2000人ほど1日100人前後である。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : 自身の実感としては20日頃まで利用者が多くいる。こちらのデータに基づくとあと一週間は開けてほしい、何とかならないか。

環境省 (松永) : 本来であれば9月の連休後から着工したいところ。何とか10月13日まで引き延ばした。10月の連休が終わるのをめどにしている。ご理解いただきたい。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : では、来た人に何を楽しんでもらえばよいのか。大体の受け入れ先はあるのか？

環境省 (松永) : 単発の工事であり、このために代替の施設を作ることは現実的ではない。工事と利用の共用ができないかどうかは十分検討を行った。実際に今年度の工期は1.5か月もとれない見込みである。ご理解いただきたい。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : 観光協会はこの件について理解しているか。

知床斜里町観光協会 (新村) : 駐車場の拡張については長年の悲願。状況は理解する。

知床ガイド協議会 (若月) : その時期カムイワッカ地区は利用できるのか。

環境省 (松永) : 詳しくは分からないが、今年のシーズン後には仮橋の撤去が予定されており、おそらく利用できないのではないか。

自然公園財団 (青木) : ホームページなどを使って事前に周知することが大切である。

しれとこ・フォーラム 21 (小川) : 極端だが、メインである知床五湖が使えないので、来るなど発信しなければ、知らずに来た利用者のイメージが悪くなる。

知床財団 (寺山) : 現状、代替案があるかどうか。閉園であるという広報は一生懸命にやる必要があるだろう。知床五湖がしまっている期間こその他の場所をアピールするチャンスだととらえるべき。自然センターでは、可能な範囲ではあるがプログラムを模索しているところである。

斜里バス (下山) : 駐車場工事を行わない場所を利用して、自然センター～知床五湖間のシャトルバスを出すことも可能だと思う。乗り換えは必要ではあるが、知床五湖を利用することができるようにするのはどうか。

ウトロ地域協議会 (桜井) : 知床を紹介する映像などでは冬の景色も魅力的なものとしていて。10月末に魅力が強まるのではないか。斜里バス (下山) が言うようにすることはできないのか。

環境省 (松永) : 元々5ヶ月かかる工期を3ヶ月に短縮したものであり、重機など車両の出入りが多い。工事を行わない箇所についても、重機や工事車両が駐車される予定である。難しいと思う。

ウトロ地域協議会 (桜井) : 来年度の後半の工期だが、四月などもっと早くやることはできないのか。オシンコシンでも冬期に工事を行っているが、冬季の工事はできないのか？

環境省 (松永) : 今年並みの積雪があった場合のことや、GW中の利用ができなくなることを考えてこの工期を設定した。

環境省（中島）：担当者に今一度確認をとってみたい。これまでも十分な協議は行っている
ので、変更は難しいかもしれないが。時間が押しているので次の話題へ。

知床財団（寺山）：

資料 3-1 平成 25 年度指定認定機関収支報告 説明

裏面、終始額は認定者数と相関があり、それは熊の出没数によって増減するものである。

資料 3-2 平成 25 年度登録引率者審査部会会計報告 説明

昨年のみ、知床五湖利用調整地区ヒグマ活動期運用改定実験の予算が取られている。

知床財団（佐藤）：

資料 4 知床五湖におけるキャンペーン企画について 説明

昨年度は、レクチャー受講者の約 3.5%、2422 人以上が利用した。店舗からも好評であった。エサやる禁止キャンペーンの一部として実施することを提案したが、個別の企画、もしくはコラボという形で実施することとなった。現在主催はあり方協議会、事務局は知床財団となっている。この形で続けようと考えているがどうか。本年度は 4 つの町（斜里町・羅臼町・標津町・清里町）に拡大を考えている。店舗数の増加が見込まれる。またキャンペーン期間の拡大も検討中。間に合えば 7 月 1 日から、おそくても 8 月からは始めたいと考えている。知床財団内で内容は検討中である。昨年度の予算は 15 万であったが、今回はチラシ、パンフレットの内容や部数の充実や店舗数の増加を見込み 15 万円～30 万円としている。

環境省（中島）：地元に経済的なメリットがあるという点で、大変よい取組だと思うし、期待している。今年は何店舗参加を見込んでいるのか。

知床財団（佐藤）：昨年度参加した 20 店舗のうち 19 店舗は来年も利用したいとっていて、地域拡大することからも、増加は間違いないと考えている。

知床ガイド協議会（若月）：よい取り組みであるにもかかわらず 3.5%という数字は少なく感じる。

知床財団（佐藤）：利用者のカウントは、各店舗に任せており、繁忙期においては確実な数はとれていないという事実があり、実際はもっと多いと考えられる。

知床財団（寺山）：聞き取りの結果では、とても好評をいただいている。店舗において今まで参加したどのキャンペーンよりすぐれているとの声も。7 月の開始まで未だ期間があるのでアイデアを入れ込む余地がある。アイデアをいただきたい。

知床ガイド協議会（若月）：パンフレットは利用者がどれだけ捨てないで手にしているかということが重要である。店舗の地図をふくめ周辺地図を充実させてはどうか。

知床財団（佐藤）：確かに昨年度はあまり詳しい地図ではなかった。

知床ガイド協議会（若月）：簡単な観光マップになるとよいのではないか。

ウトロ地域協議会（松本）：目的は十分理解できる。だが、負担が観光協会と知床財団というのは疑問がある。斜里町や観光協会に所属していなくても、利益を受けることになる。

環境省として、指定認定機関の予算から出すことできないのか。

環境省（松永）：予算はそれぞれ用途が決めているので、不可能である。

環境省（中島）：本キャンペーンの主催、事務局に関しては、現行のままでよろしいか。

一同：異議なし

知床財団（寺山）：今後とも知床財団の方で検討する形でよろしいか

一同：異議なし

知床斜里町観光協会（新村）：五湖の冬期利用について、ご報告させていただく。冬期の利用形態であるが、ルールに従い限定的に行う。知床エコツーリズム適正利用会議に提案している最中。部会を設置し議論を進めているところである。

① 岩尾別からスノーシューやスキーを用いた徒歩利用

② ガイドの引率による五湖の利用

③ バスを利用した高架木道の解放

が案としてある。先日のエコツアー検討会議での指摘事項として、シャトルバスで五湖にいった場合の体験内容の検討の必要性、安全対策について具体化やシミュレーションが必要であることなどが挙げられた。部会において検討し、6月の会議にて再報告する予定である。

ウトロ地域協議会（桜井）：シャトルバスを利用することに何か付加価値はあるのか。

知床斜里町観光協会（新村）：曇っているときや悪天候時に別の対応することができる。

環境省（松永）：補足ではあるが、冬期利用に関して、曇っているときに追加で見せるものというよりも、冬季の五湖で何を見せたいか、何を体験してもらいたいかというコンセプトをはっきりさせることが重要であるという指摘を受けた。

ウトロ地域協議会（松本）：冬期利用というのは地域にとってとても重要な課題である。しかし、地域経済という面から考えると、利用する人はそこまで多くなく、除雪費用などを考えると採算が合わないだろう。道道であるため道が除雪を行ってくれるのなら話は簡単である。道路の使用許可という形ではなく、もう少しそれぞれの立場の協力が必要である。

知床ガイド協議会（若月）：話は変わるが、現行の冬期のガイドツアーも平行して行うことはできるのか。

知床斜里町観光協会（新村）：可能である。

しれとこ・フォーラム 21（小川）：ガイドの冬季の五湖への送迎もどうかと思う。安全を考えると、全員がシャトルバスで行き、決められたコースをガイドする方法がいいのでは。

環境省（松永）：次回は年末の開催を予定している。よろしくお願ひしたい。

以上